

科目名	技術革新と社会変動
担当者	江上能義
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	<p>人類史上、物質文明が今日ほど繁栄している時代はかつてなかった。急速な科学やテクノロジーの発達が大量の生産物と膨大な消費を生み出し、人々を技術開発へと駆り立てる。国際舞台でも、技術摩擦や技術移転が論議の焦点となっている。</p> <p>いまや科学技術開発は先進国であり続けるための必須条件であり、大学の役割も、企業との連携による有用な知の生産という側面が重要視されるようになってきた。いわゆる産官学連携や TL0(Technology Licensing Organization)の大学での相次ぐ設置である。</p> <p>このように、わが国や世界の諸国は科学技術政策を基本政策の中軸に位置づけて強力に推進している。科学技術の進歩発展はいっそう加速化し、その応用分野もますます拡大して、科学技術は経済産業の分野のみならず、人びとの社会生活、個人生活にも大きな影響を及ぼしている。</p> <p>現代の技術革新を、科学技術政策や社会変動およびデモクラシーの視点から問い直して考察する。</p>
授業の到達目標	<p>科学技術（テクノロジー）と社会についての基本的な視点や論点について学び、戦後日本の科学技術政策の概略を理解する。そしてテクノロジーと社会、もしくはテクノロジーとデモクラシーを調停もしくは仲介する制度的な試みについて考察・討議する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) これからの科学技術と社会 ～ 『科学技術白書』（文部科学省） (2) 日本の科学技術政策 1) 科学技術立国の主張（中山太郎） (3) 日本の科学技術政策 2) 科学技術創造立国へ（尾身幸次） (4) 日本の科学技術政策 3) 科学技術基本法の制定 (5) 日本の科学技術政策 4) 総合科学技術会議の発足 (6) 日本の科学技術政策 5) 沖縄科学技術大学院構想 (7) J. エリュールの「テクノロジカル・システム」 (8) テクノロジーとデモクラシーの接点を求めて－R. ダールの提言 (9) 科学論争を調停する制度的な試み 1) サイエンスショップ (10) 科学論争を調停する制度的な試み 2) コンセンサス会議 (11) テクノロジーと社会のさまざまなテーマについての討議・考察 1) (12) テクノロジーと社会のさまざまなテーマについての討議・考察 2) (13) テクノロジーと社会のさまざまなテーマについての討議・考察 3) (14) テクノロジーと社会のさまざまなテーマについての討議・考察 4)

	(15) 総括	
教科書		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尾身幸次『科学技術で日本を創る』東洋経済新報社、2003年 ・ 新田孝彦/蔵田伸雄/石原孝二 『科学技術倫理を学ぶ人のために』世界思想社、2005年 ・ 小林傳司 『トランス・サイエンスの時代』NTT出版、2007年 	
成績評価 方法		評価基準
	試験 %	
	レポートもしくは報告 50%	授業のテーマにしたがって指示する課題レポートを提出もしくは報告し、その内容によって評価する。
	平常点評価 20%	授業への参加度を評価する。授業中の質問や発言および討論の内容によって評価する。
	その他 30%	出席状況を評価に加える・
関連 URL	http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa200901/1268148.htm	
備考	連絡事項は、 tegami@waseda.jp 宛のメールで	